

『世界遺産三内丸山遺跡の価値と魅力』

岡田 康博(三内丸山遺跡センター)

はじめに

2021年7月の第44回世界遺産委員会拡大大会において、青森県、北海道、岩手県、秋田県に所在する17の縄文遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が実現しました。なかでも特別史跡三内丸山遺跡は中核の遺跡です。

各地の博物館などでは縄文に関する特別展などが開かれ、大勢の見学者が訪れています。再び、縄文ブームがやってくるのかもしれません。

1 縄文時代について

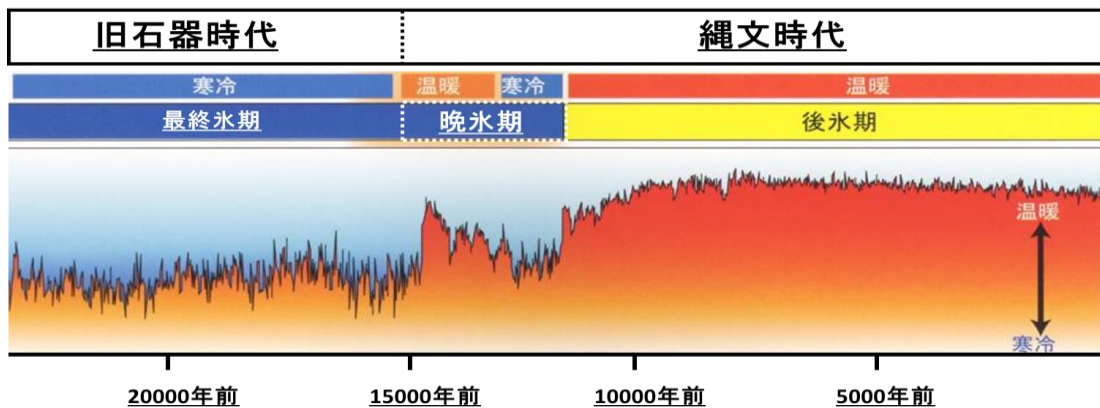
(1) 急激な温暖化～遊動から定住へ～

採集・狩猟・漁労を生活の基盤としながら、遊動から定住へと、生活が大きく変化した時代です。

地球規模での急激な気候温暖化とともに寒冷だった旧石器時代は終わり、新たに縄文時代が始まりました。縄文時代は約15,000年前に始まり、日本列島で灌漑を伴う本格的な稲作農耕が始まる約2,400年前まで続いた狩猟採集文化の時代です。

縄文時代は1万年以上もの長きにわたって継続し、本格的な農耕や牧畜を伴わず定住が開始、発展、成熟した世界的に希少な文化の時代と言えます。

さらに日本の歴史の大半を占め、現代生活や文化の基礎となったことから、日本文化の基層が形成された時代との認識もあります。



(2) 豊かな自然の恵み

植生も針葉樹林から落葉広葉樹林へと大きく変化し、クリ・クルミ・ミズナラなどの堅果類や山菜など森の恵みが豊富になりました。北海道・北東北ではブナを中心とした生物多様性に富んだ森林が海岸線まで広がり、そこが人々の生活の中心域でもありました。

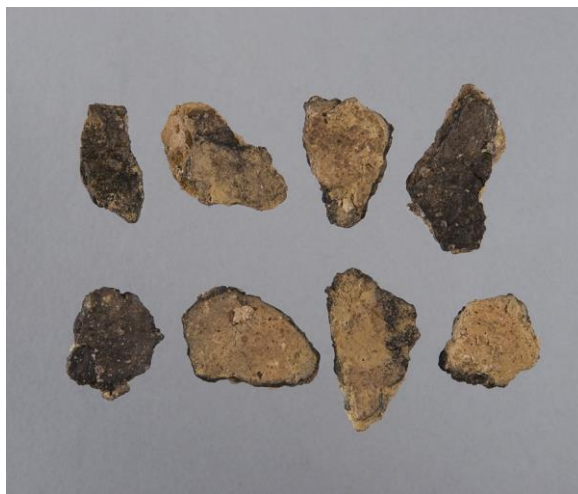
海洋では寒流と暖流が交差し、豊かな漁場が形成されるとともに、サケ・マスなどの回遊魚にも恵まれました。海進によって海が内陸へ入り込み、入り江や内湾が数多くでき、汽水域も形成され、貝類の採集に適した環境ができました。

（３）土器の出現

現在のところ、土器の出現をもって縄文時代のはじまりとするのが一般的です。

その縄文時代の幕開けを告げる「最古の土器」が青森県外ヶ浜町史跡大平山元遺跡から出土しています。土器付着炭化物の高精度年代測定が行われ、正確な年代測定が行われた中では「最古の土器」のひとつです。

土器片の内外面に炭化物の付着や火熱を受けた痕がはっきりと残され、煮沸や煮炊きのために作られたものであることが明白です。土器の使用によって生活は大きく変化し、「煮る」ことによって、例えば動物の堅い腱や筋が柔らかくなることや、木の実や山菜などの灰汁抜き処理も可能となり、利用できる自然の恵みの範囲が格段に広がりました。土器は食生活の安定をもたらし、定住が大きく促進しました。



（４）縄文時代の変遷と特徴

長期間にわたることから、現在は草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の６期に時期区分して変遷が考えられており、時代性、地域性も見られます。

○草創期（15,000～11,000 年前）

土器と弓矢（石鏃）が出現。後半には集落を形成。

○早期（11,000～ 7,000 年前）

温暖化による海進のピーク。貝塚や大型住居を持つ集落の出現、漁労具の発達、定住的な生活の開始

○前期（7,000～5,000 年前）

遺跡数（集落）の増加、前期末頃から大規模集落（拠点集落）出現、円筒土器文化の成立

○中期（5,000～4,000 年前）

拠点集落の繁栄、円筒土器文化の終焉

○後期（4,000～3,000 年前）

一時的な寒冷化、大規模環状列石の出現、祭祀的な遺物の増加、集落の拡散・分散化

○晩期（3,000～2,400 年前）

亀ヶ岡文化の成立、精巧な土器や土偶の増加

（５）縄文人とは

平均身長が男性で 157cm、女性はそれより 10cm ほど小柄で、筋肉質の体をしていました。顔は彫りが深く、縄文美人の代表は女優の吉永小百合さんとされています。骨折やガンの事例もあります。結核は確認されていません。また縄文人には虫歯がありました。これはでんぷん質の食料を大量に摂取し始めた可能性を示しています。鞭虫の寄生虫卵も大量に出土し、寄生虫に悩まされていたこともわかってきました。

2 世界遺産としての価値

縄文遺跡群の持つ顕著な普遍的価値は、北東アジアにおける農耕以前の狩猟・採集文化を基盤として、定住を達成した生活の様相や精神文化を具体的に示す物証です。

縄文遺跡群は人類の歴史と文化の成り立ちが環境と密接な関係にあり、地球上における多様な環境の下で成立した狩猟・採集文化のひとつの典型を示し、地域文化圏を構成する 17 遺跡でもって全体の価値を説明しています。

推薦資産は、定住の過程を大きく開始、発展、成熟と三段階に区分し、それぞれにおける環境適応、集落構造と立地、祭祀・儀礼のあり方などについて切れ目なく説明できます。

さらに今回の登録は、シリアルノミネーションであり、同一の歴史・文化群であるという点がきわめて重要となりました。



3 特別史跡三内丸山遺跡について

我が国を代表する縄文時代の大規模集落遺跡です。縄文時代前期から中期にかけて（約 5900～4200 年前）長期間にわたり定住生活が営まれ、集落では竪穴住居、成人用土坑墓、小児用甕棺墓、掘立柱建物、盛り土、捨て場、粘土採掘穴、貯蔵穴、道路などが計画的に配置されています。

特に直径約 1 m のクリの巨木を使用した大型掘立柱建物や東西に 420m 以上も延びる道路、それに伴う大規模な墓地は他に例がありません。

膨大な量の土器や石器のほかに日本最多の 2000 点の出土点数の土偶や岩偶、骨角器、木製品、漆器、動・植物遺体が出土しています。

北陸産のヒスイや岩手産の琥珀、北海道、佐渡、信州産の黒曜石など他地域との交流・交易を示す遺物も出土するなど、縄文時代における集落の全体像や変遷、社会構造、自然環境や生業、精神性などを考える上できわめて重要な遺跡で、平成 9 年 3 月 5 日に国史跡、平成 12 年 11 月 24 日には特別史跡に指定され、出土品の一部は平成 15 年 5 月 29 日に重要文化財に指定されています。

(1) 時代

縄文時代前期中頃から中期（約 5900 年前から約 4200 年前）

(2) 種別

円筒土器文化を代表する集落跡。集落の全体像がわかる貴重な遺跡。

(3) 保護措置

国の特別史跡に指定。縄文遺跡としては全国で 3 件目、44 年振りの指定。

価値が特別高く、保存状態も良好。我が国の歴史や文化の成り立ちを知る上で欠か

すことができない遺跡。

※大湯環状列石（秋田県鹿角市）、尖石遺跡（長野県茅野市）、加曽利貝塚（千葉市）



（４）特徴

- ・ 自然環境→落葉広葉樹の森、クリ林の発達、縄文里山の成立。
- ・ 暮らしの様子→食生活、集落や住居の構造
- ・ 技術→うるし工芸
- ・ 物流→ヒスイ、コハク、アスファルト、黒曜石
- ・ 死生観→大規模な墓地
- ・ 土木工事→造成、盛り土、護岸
- ・ 祭祀、儀礼→多様な出土品
- ・ 社会構造→階層社会

４ 終わりに

縄文遺跡群の世界遺産登録によってもたらされたもの

- （１）人類史における縄文時代（文化）の評価
- （２）適切な保存と活用のあり方
- （３）発掘など調査研究の継続
- （４）現代社会との関係、再生可能な資源利用の必要性
- （５）地域の元気や活力に貢献

遺跡の魅力や価値は現地でしか実感できないこともたくさんあります。時には縄文の風に吹かれてみませんか？お待ちしております。